



## H26フラッシュ放流時の流下状況(地点①)



# ダム下流への置き土(下久保ダム)

	置土地点①(検討区間Ⅰ)		置土地点②(検討区間Ⅱ)		放流要因 (流下量内訳)
	置土量※	流下量	置土量※	流下量	
平成15年度	2,000 (1,000)	1,000	-	-	前線
平成16年度	2,000 (2,000)	1,000	-	-	台風
平成17年度	2,200 (2,200)	2,000	5,400 (5,400)	-	台風等
平成18年度	- (700)	1,500	- (5,400)	-	前線、低気圧
平成19年度	1,800 ( 0 )	2,500	10,200 (6,100)	9,500	台風(台風9号)
平成20年度	3,900 (2,600)	1,300	4,300 (10,400)	-	前線、フラッシュ放流
平成21年度	- (2,600)	-	7,100 (17,500)	-	
平成22年度	2,900 (2,900)	2,600	3,800 (21,300)	-	ドローダウン(1,000m³) フラッシュ放流(1,600m³)
平成23年度	2,700 (2,700)	2,900	6,200 (20,600)	6,900	フラッシュ放流(1,300m³) 台風12号後(1,600m³)
平成24年度	5,000 (3,100)	4,600	2,900 (23,500)	-	緊急希釈放流(2,600m³) フラッシュ放流(2,000m³)
平成25年度	- (3,100)	-	- (23,500)	-	
平成26年度	3,300 (2,600)	3,800	- (23,500)	-	ドローダウン(2,700m³) フラッシュ放流(1,100m³)
平成27年度	3,800 (3,100)	3,300	- (12,000)	11,500	前線(1,400m³) 台風18号後(1,900m³)
平成28年度	- (0)	3,100	3,480 (12,200)	3,280	台風10号・16号後(3,100m³)
合計	29,600	29,600	43,380	31,180	

※上段:新規置土量  
下段( ):置土残存量



## クレンジング効果による三波石峡の洗浄







平成13年



平成16年



### ■ 銘石の長期的な変化の例

	S50代(土砂掃流前)	H22フラッシュ放流前	H28台風10号16号後
袖石			
絹掛石			

- 土砂掃流試験の継続的实施により黒ずみや藻類・植生の著しい繁茂の抑制に効果を発揮しているものと考えられる。
- 大規模出水ではクレンジング効果が著しい。